

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年12月 2日

第106号 (通巻)

文責 (校長; 末永栄喜)



いよいよ師走に突入!! 2学期も残り3週間



小雪 (寒くなって雨が雪になる頃) を過ぎ、いよいよ今週末は大雪 (雪が降り積もる頃) を迎えます。巷ではクリスマスソングが流れ、社会全体がクリスマス・歳末商戦へと活気づいていきます。一方で、マイコプラズマや溶連菌、これからはインフルエンザ等の感染症の拡大が心配されます。予防対策を万全に整えつつ、最後まで元気に過ごしたいものです。

さて、先週末の金曜日に生徒会役員改選に伴う立会演説と投票が行われました。今年度は対立候補がおらず、どの役職も信任投票という形で行われました。とは言え、どの候補者もその人望の厚さゆえに推薦を受けたわけですので、応援者の演説にも熱が入っていました。当然のことながら、候補者の「公約一覧」(発表)からもその固い決意と心意気が伝わってきました。投票後、即日開票されて新しい役員が決定しましたので紹介します。

◇会長 佐藤 尋太(2年)

◇副会長 本田彩音(2年) 岩岡紗希(2年)

◇書記・会計 三宅一生(1年) 野副 仁(1年)

年度単位で動く学校でこの時期の改選ではありますが、年度途中だからこその特徴を生かした活動ができるように期待したいところです。今月19日の任命・引継式を経て、愛野中学校の「新たな歴史」が始まります。全校生徒が信任をした代表です。公約の実現はもちろん、それをみんなで支えながら、楽しく明るい学校を創っていきましょう。その姿勢・行動を楽しみにしています。



10日(火)は学年学級PTAです。

来週は授業参観週間として、午後の授業を開放します。また、10日(火)の午後は1・2年生は学年学級PTAを開催します。ご多忙とは存じますが、どうぞご参加ください。

なお、明後日の午後6時半から、先日ご案内していました部活動振興会の運営委員会を行います。お仕事でお疲れのこととは存じますが、関係者の皆様にはご参集いただきますよう改めてお願いします。



先週木曜日の生徒集会で、これまでの大会や応募作品で受賞した個人(団体)を表彰しました。※掲載以外は紹介済み

◆第35回諫早市長杯争奪スポーツ選手権大会(Bパート)

○バレーボール女子 準優勝 (11/3)

◆第19回 長崎県中学校総合文化祭 優秀作品(11/20)

○絵画の部 出田瑚実

○書道(半紙の部) 横田七星

※第104号で紹介したJA共済小・中学生書道コンクールで個人表彰が一人抜けていました。失礼しました。

○半紙の部 支店長賞 林田蒼空(条幅とのW受賞です)

◆熊本神泉会旗争奪九州選抜少年剣道錬成大会(11/24)

○中学生の部 男子団体 敢闘賞

○中学生女子の部 団体 3位

校長室の窓から コミュニケーション力 & 自己分析力UP大作戦

前号では、コミュニケーション力がいかに大切であるかをアンケート結果から紹介しました。本号では、その力を高めるためのポイントをお話します。



大阪教育大学の野口克海先生によれば、コミュニケーションの力を高めるためのポイントは、「話すネタ」と「場慣れ」だそうです。コミュニケーションがうまくできないのは、何を話せばいいかわからない、つまり「話すネタ」を持っていないからで、人前で話す経験が乏しく「場慣れ」していないために、コミュニケーションを苦痛に感じるのだそうです。

「話すネタ」を増やすためには、体験をすることが一番です。自分が実際体験して、その時にどう感じたか、どう行動したか、何ができて何ができなかったか…といった体験から得た「話すネタ」を多く持つことが、その人のコミュニケーションの力を引き出してくれます。

また、クラスの友達に自分の意見を伝えたり、みんなの前で発表したりするなどの経験を重ねながら「場慣れ」していくことで、コミュニケーションの力は高まっていくはずですが、そんな場面は授業をはじめ、普段の学校生活の中にもたくさんありますよね。遠慮せず、億劫に感じず、恥ずかしがらずに自分をさらけ出してみてもいいですか。これもまた「チャレンジ」だと思うのですが…。もちろん、それを可能にする学級の環境、いわゆる「支持的風土」が大切です。人権集会も近づいています。そんな学級を意識しながら創っていきましょう。当然、学校全体としても目指していきたいですね。

さて、話は少し変わりますが、もうしばらくしたら3年生は入試本番に向けて面接練習が本格化していきます。既にその準備・練習に取りかかっている頃だと思いますが、入社試験においてよく聞かれる質問として気になるものを見つけましたので紹介します。それは、

「あなたは周りの人にどう思われていると思いますか?」

という質問です。答えられますか。高校入試に置き換えれば「あなたの長所は何ですか」といったところでしょうか。高卒や大卒の人に聞く質問ですからやや堅苦しさを感じますが、「周りの人」という第三者のフィルターを通して答えなければいけない点がポイントですね。いかに自分を客観的に捉えられているかです。



自分の得意なところを出しつつ、苦手なところは誰かに助けてもらいながら共通の目的を達成していくのが社会の仕組みです。しかし、周りの人がどのようなことで自分を頼りにしているのか認識が出来ていない人は、相手の気持ちを考えないで行動していると言えます。このような(この問いに答えられない)人は、自ら考えて行動することが出来ないケースが多いと言われます。

自分の長所と言えど、「根気がある」「優しい」「友達がたくさんいる」「責任感が強い」といった簡単な言葉で済ませず、自分の実体験を交えた根拠や行動で裏付けされた自信を基に話せば、説得力やアピールも増してくるでしょう。そのためにも、今のうちに多くのことにチャレンジして(場数を踏んで)、話すネタを探して(貯めて)いきたいものです。